「岩手・宮城・福島における「被災地障がい者支援センター」の活動経過」

権藤 眞由美・有松 玲（立命館大学大学院先端総合学術研究科）・青木 千帆子（立命館大学立命館グローバルイノベーション研究機構）

目的：3月11日の東日本大震災で大きな被害を受けた福島・宮城・岩手の3県において障害当事者団体がどのように動いていたのかを時系列的に追う

方法：3県に設置された被災地障がい者支援センターの発行する資料、これらを支援するゆめ風基金のHP（http://homepage3.nifty.com/yumekaze/）掲載資料、東北関東大震災障害者救援本部のHP（http://shinsai-syougaisya.blogspot.com/）掲載資料、3つの支援センターに関連する新聞記事を通読し、整理した

Columns: 被災地障がい者支援センターふくしま ／ 被災地障がい者支援センターみやぎ ／ 被災地障がい者支援センターいわて

3/11
- 全体：地震発生。午後2時46分マグニチュード9.0を記録する地震が東北地方太平洋沖で発生
- 【課題】介助者も被災にあっており、介助者の数が足りない。
- みやぎ：「たすけっと」活動中に地震に遭遇。「たすけっと」から避難所へ移動するが人であふれていて、いることができない。仲間と共に「たすけっと」で何日か過ごす。

3/12
- ふくしま：きょうされん会員安否確認開始

3/18
- ふくしま：第1回打ち合わせ。あいえるの会、きょうされんの両方の関係者（約14名）が集まる
- みやぎ：3/15 CILたすけっと地域生活オウエン団せんだい・利用者、事務局スタッフ全員の無事をブログで報告
JILのメーリングリスト・CILたすけっととのツイッターなどで情報発信PCを避難させたため公式ア…

3/19
- ふくしま：第2回打ち合わせ
いわき自立センターから東京都新宿区の戸山サンライズへ避難(障害当事者8名→内3名要介助・職員11名・家族14名合計33名(33名中4名は東京の親戚家族の家泊)
- みやぎ：3/17「たすけっと」へ本日、紙おむつ2500枚など支援物資第一陣が東京から出発
- 全体：3/19 東京新聞障害者を独自支援—全国の団体が本部設立。障がい者で残っている方の理由→原発への危機感が薄く焦ってい生活も考えられること。家族介護で成り立っていた頚損の方が家族ない。重度の障がいを持っていて避難先の環境次第ではサバイバルだけ避難して自分はベッドの上。介護難民がいる。

3/20
- ふくしま：第3回打ち合わせ
- みやぎ：3/20 河北新報
在宅の障害者生活困難に 仙台「震災の影響で、在宅の重度障害者らの生活が困難になっている。仙台市内などの食料品店には市民が殺到、数時間待ちのケースもある。介護に追われる家族は長時間の外出や、買い出しが十分にできずにいる。…おむつや、固形物が食べられない克さんのペースト食など必要な介護用品も入手できず、残った分でやりくりを続けている。

3/21
- ふくしま：いわき（自由空間）へ物資を届ける

3/22
- ふくしま：第4回打ち合わせ
- みやぎ：「たすけっと」へ救援物資第二陣が東京から発送
- 全体：3/22 NHKニュース日本自閉症協会、自閉症の人とその家族向け避難所での注意や心のケアをまとめたハンドブックを公開。http://www.autism.or.jp/cgi-bin/saigai

3/23
- ふくしま：センターにJDFの冠をつけて障害団体の活動にする
いわきへ物資を届ける
浜北・浜南拠点づくり→物資運搬、拠点周辺のネットワーク・情報収集
- みやぎ：3/23 河北新報
大震災後の街はどこもかしこも行列だ。…欲しい物を手に入れられるのは元気な人、時間の余裕のある人—という現実がある▽外に出るのもままならず、被災した家で暮らし続ける障害者、高齢者には最低限の水や食料の調達さえ至難の業だ。避難所に行って炊き出しを受けることも

3/24
- ふくしま：県障がい福祉課へ訪問・要望書提出
- 全体：3/24 朝日新聞 阪神大震災を機にできた障害者支援のNPO法人「ゆめ風基金」（大阪市）が、16年かけて積み立てた基金約2億円の全額を、東日本大震災で被災した障害者の支援に投入する。
理事の八幡隆司さん（53）は、各地の障害者団体でつくる障害者救援本部を代表し、18日から20日にかけて福島県郡山市と仙台市で障害者の避難状況を確認。現地の団体から現状を聴き取ったところ、ガソリン不足でヘルパーが介護に向かえなかったり、筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者のたんを吸引するチューブが不足したりしているという

3/25
- ふくしま：いわきの拠点（けやき共同作業所）に物資配達

3/26
- ふくしま：相馬の拠点（ひまわりの家）へきょうされん愛知支部から物資配達、聞き取り
東北関東大震災障害者救援本部より郡山市のILの会にガソリン発送
- みやぎ：東北関東大震災障害者救援本部より仙台市のクリニックにミネラルウォーターとシガーソケット用コンバーター発送

3/27
- ふくしま：郡山市ビッグパレットふくしまに自走式車いすに乗られた方が数名いる→支援ニーズ調査を行

3/28
- ふくしま：いわきの拠点（けやき共同作業所）へきょうされん愛知支部から物資配達、聞き取り
- 全体：3/28 医療介護CBニュース 東日本大震災の発生を受け、厚生労働省はこのほど、福祉・介護職員1人当たり平均月1.5万円を交付・助成する「介護職員処遇改善交付金」(介護保険制度)と「福祉・介護人材の処遇改善事業助成金」(障害者福祉制度)の取り扱いについて、各都道府県の介護保険と障害福祉を担当する課(室)に事務連絡した。被災の影響で、処遇改善事業を実施する事業所が福祉・介護職員に対して交付金・助成金の支払いが難しい場合は、支払いを延期しても差し支えないと明記。

3/29
- ふくしま：支援物資の中継点にして良いのでどこへ送るか、情報の整理が必要
いわき市・南相馬市へ物資届け、聞き取り
- みやぎ：3/30 JDF東北関東大震災被災障害者総合支援本部 みやぎ支援センター開設
エンシュア、紙おむつなどの医療系、電子レンジやポットなどの日用品、布団、経口栄養剤、原

3/30
- ふくしま：きょうされん常任理事西澤氏福島入り

3/31
- ふくしま：団体へ呼びかけ（JDF構成団体）→事務局体制づくり
- 【課題】岩手県石巻市立病院¡患者の避難所では、急変時に対応ができないという理由からついたてなし。

4/1
- ふくしま：会津の拠点（希望の杜）物資届け・聞き取り
いわき市のリストアップしたつながりのない小規模事業所へきょうされんチームが 物資届け・聞き取り。
- みやぎ：「被災地障がい者支援センターみやぎ」設立
①被災された障がい者への物資、支援金・人員の提供②被災された障がい者に関する情報収集・提供・情報交換③被災された障がい者に関する調査・行政などへの政策提言

4/2
- ふくしま：福島市・県社協・ボランティアセンターへ挨拶
第5回打ち合わせ
相馬の拠点（ひまわり）へ物資届け。聞き取り（物資は整ってきている。精神関係の医師を派遣してほしいという要請→県へ
- みやぎ：「大地震大津波の影響を受けた障がい者団体の皆さまへ・被災状況をお知らせ下さい」掲載
障がい者市民が被災された状況、障がい者活動拠点の被災状況、救援活動などについて、情報の収集に努める。

4/3
- ふくしま：JIL、あいえる、きょうされんミーティング
・避難訪問活動をしていく、在宅の障がい者の把握
・公立相馬病院の医師が8日までにいなくなると情報が入る
・原発の影響でドライバーが運ばず南相馬市には物資が届かない
- みやぎ：ブログ 震災による支援活動について掲載

4/4
- ふくしま：・いわきの拠点へ（けやき、自由空間）
・太田和美（衆議院議員）来訪し懇談
・きょうされん17名車8台
・支援活動者の会計ルール作成（1日食費1500円支給）
・事務所開設式案内状の送付
ビッグパレットふくしま→1万人ほどの人が避難生活をしているが障害者を全く見かけない。介護が必要な方のスペースが2階にあり、エレベーター前は段ボールハウスで埋め尽…
- みやぎ：ブログ「被災地障がい者支援センターみやぎ」設立について・ゆめ風基金への協力願い
被災した障がい者の皆さんへ掲載
- 【課題】宮城県内の被害状況の調査、ニーズの把握、金銭的・物的・人的救援
- 【課題】障がい者が避難できているか、避難所で暮らせているか、日常活動の場所に破損はないか、必要な物資はあるか等の困難やニーズに対して、敏速かつ細やかに「顔の見える関係」「つながり」を大切にしなgら救援物資や救援金・人員を届ける。
- 【声】いわき市、郡山市、福島市に避難勧告が出た場合およそ100万人が避難することになる。それを何処で受け入れる
- 全体：4/4 毎日新聞 県は5～29日、東日本大震災の被災地にいる障害者向け臨時窓口「障がい者相談支援センター」を陸前高田市、大槌町、山田町の3カ所に開設する。福祉行政を担う市町が大きな被害を受け、被災した障害者に十分に対応できないため、開設を決めた。

4/5
- ふくしま：個人からの物資が支援センターに届きはじめる
JDF会議でゆめ基金は福島と決定
- 【課題】多くの介護派遣事業も被災し、利用者の安否確認が進んでにない。現在、仙台と郡山に現地現地拠点を設置し、作業にあたっている。今後、仮設住宅のバリアフリー化、介助派遣の人材確保、ヘルパー講座派遣、被災者の心のケア、ピア・カウンセラーの派遣、原発被災者の避難場所の確保など
- 全体：4/5 京都民報 障害者共同作業所などの全国組織「きょうされん」の京都支部は東日本大震災の被災地へ3人のボランティアを派遣しています。…今日から、「被災地障がい者支援センターふくしま」の活動に加わり、障害者の実態調査のため郡山市内の避難所をまわり、聞き取りを行っ

4/6
- ふくしま：センター開設式
避難所への支援センターの周知・調査隊スタート
- 【課題】・CILいわき→新宿区の戸山サンライズに避難しているが、集団避難も時間的に限界がある。

4/7
- ふくしま：県社協より救援物資がにんじん舎へ届く←4/10南相馬へ運搬
ミーティング
現状→「総合相談窓口」開設、障害当事者が避難所から地域へ戻ってきてからの支援、郡山市在住の障害者名簿の開示交渉中
- 【課題】避難所から戻ってきた方の多くは避難所での今後の展望が肉体的、精神的に限界を超えたためと思われる。
- 【声】「いつものディに行きたい」「仲間に会いたい」「通いたい」
- いわて：4/7 障がい者の働く場ニュース
岩手県は5日～29日にかけて、東日本大震災の被災地の障がい者向けの臨時相談窓口「障がい者相談支援センター」を陸前高田市、大槌町、山田町の3か所に開設することを決定した。…ちなみに2010年末での障害者手帳所持者は、それぞれ陸前高田市1397人、大槌町1061人、山田町1020人となっているが、被災後にどのような不便を被っているかは今のところ把握できてな

4/8
- ふくしま：介護事業所から障がい者の情報収集
セルプ救援物資受け取り

4/9
- ふくしま：蓮舫内閣府特命担当相、村木厚子氏内閣府政策統括官（共生社会担当）、金子恵美（参議院議員）が来訪。センターからは避難した障がい者の現状を報告。現場からの要望（10項目）を手
- 全体：4/9 毎日新聞 東日本大震災で被災した障害者を支援しようと、全国の障害者団体でつくる「東北関東大震災障害者救援本部」（事務局＝全国自立生活センター協議会、中西正司代表）が設立された。窓口となるNPO法人「ゆめ風基金」（大阪市東淀川区、牧口一二代表理事）のメンバーが9日、大阪市中央区の繁華街で募金を呼びかけた。救援本部は、福島県郡山市と仙台市の2カ所の自立生活センター内を拠点に、障害者の被災状況確認や避難所に行けない障害者へ物資を届ける活動などを行っている。

4/10
- ふくしま：増子輝彦（参議院議員）が来訪し懇談

4/11
- ふくしま：県社協から救援物資
南相馬市「ディさぽーと ぴーなっつ」再開予定

4/12
- ふくしま：・ひとりじゃないよ！ 信じあい 助けあいながら ふくしま支援センターニュース つながりNo.1発
- いわて：「被災地障がい者支援センターいわて」設立 （岩手県盛岡市）→本部
- 全体：4/12 毎日新聞 被災した障害者の電話相談に乗ろうと、市民団体が「被災地障がい者支援センターふくしま」を開設した。NPOや社会福祉法人で作る「日本障害者フォーラム」が今回の震災を受けて郡山市で運営している。

4/13
- ふくしま：JDF被災地障害者支援センターふくしま会議
・谷博之議員（参議院議員）民主党障がい者政策プロジェクトチーム座長が来訪する。
- いわて：4/13 岩手日報 県ろうあ協会など県内8団体はこのほど、「東日本大震災聴覚障がい者支援岩手本部」を立ち上げ、被災地の聴覚障害者の心のケアに本格的に乗り出した。

4/14
- 全体：4/14 読売新聞 原発から20キロ・メートル圏内で避難指示が出た区域や、屋内退避とされた20～30キロ・メートル圏を含む相双地区では事故後、南相馬市と双葉町で、精神科病院と精神科のある一般病院4施設が閉鎖した。…南相馬市の北側に接する相馬市では、精神障害者の自立を支援しているNPO法人「ひまわりの家」で、利用者の多くが、薬がなくなって不安定な状態に。同法人は、医療関係者に働きかけるなどし、何とか開けてもらった薬局に薬の調達を依頼。…3月29日になってようやく、相馬市の公立相馬総合病院に

4/15
- ふくしま：福島県知事 佐藤雄平様に提案と要望書

4/17
- 全体：4/17 産経関西 視覚障害者関連団体がオールジャパン体制で結集、被災地の視覚障害者を本格的に支援する対策本部が3月下旬、「日本盲人福祉委員会」（本部・東京都）に立ち上がった。

4/20
- ふくしま：福島県各市町村宛に「被災障がい者に関する提案と要望」提出
JDF被災地障がい者ふくしま支援センターニュース「 つながり」No2発行
- 全体：4/20 毎日新聞 東京電力福島第1原発の事故に伴い、業務が止まっていた福島県南相馬市の障害者施設が再びスタートした。NPO法人「さぽーとセンターぴあ」が運営する通所型の「ぴーなっつ」と「ビーンズ」。一部が屋内退避区域に指定された市内では同様の施設の休止が続いているが、ぴあは県や市に再開を強く働きかけていた。「避難所で暮らせない障害者と家族を支えたい」。スタッフの共通した思いだ。
- 全体：4/20 毎日新聞 障害者団体の全国自立生活センター協議会（JIL）などが設立した東日本大震災障害者救援本部（東京都）が、仙台市と福島県郡山市の2カ所を拠点に、障害者の被災状況を確認し、相談や支援物資を届ける活動を行っている。
- ふくしま・みやぎ：4/21 毎日新聞 JDFは避難所を訪ね歩き障害者から聞き取り調査を続けており、19日までに訪問した避難所は240カ所。そのうち安否確認や支援できた障害者は140人で、県内沿岸部の障害者手帳所持者5万3511人のうち0・3%に過ぎない。
- いわて：4/22 岩手日報 東日本大震災で被災した沿岸12市町村の避難所で生活する障害者が合わせて1987人に上ることが21日、県のまとめで分かった。…各自治体の障害者数は釜石市が580人で最多。うち身体障害者が451人を占めた。大船渡市は227人、宮古市は193人だった。先行して調査が終わっていた3市町は、陸前高田市397人、大槌町380人、山田町132人だった。県は今月5日から被害が大きかった陸前高田、大槌、山田の3市町に相談支援セン

4/23
- ふくしま：被災障がい者をできるだけより良い環境の避難場所に誘導するセンターの活動を、マスコミを通して、テロップや案内などを通じ、幅広く福島県民に伝えるため協力要請の文書を各テレビ

4/26
- ふくしま：訪問先状況報告→川俣町NPO法人 達南精神保健福祉会地域活動支援センター訪問(けが人はいなかったが、元の建物が古く移転した)
- みやぎ：被災者の救援活動や障害者の介助活動で自動車が必要(要請2週間前)先々週末2台
24日に2台、中古軽自動車が届く。(今後、リフトカーも届く予定)

4/28
- 全体：4/28 毎日新聞 ある避難所では「障害者はいない」と言われたが、館内放送をしたところ精神保健ボランティアから「この避難所に何人もいて、医師や薬の手配をしている」と打ち明けられた。飯川さんは「特に精神障害者は差別を恐れたり遠慮したりして避難所でも言いにくい。施設職員や自治体も被災していて実態がつかめない。
- 全体：4/28 産経ニュース 東日本大震災で被災した視覚障害者のうち、宮城県内の太平洋沿岸13市町だけで少なくとも11人が安否不明のままで、38人が避難所生活を送っていることが27日、支援団体の調査で分かった。…対策本部によると、13市町で身体障害者手帳を持つ視覚障害者は1847人にのぼり、今回の調査では全体の85%は所在すら確認できなかった。

5/2
- いわて：ボランティアスタッフ3名で、山田町の支援希望者宅を訪問(通院付添・買い物支援・自宅の片づけ・布団干し・近所の散歩)引き続き継続的な個別支援を行う。
- 【課題】避難所である学校の体育館は、寒い、暑い、汚い。トイレや手洗い場など少なく段差が多い。生活するようには造られておらず、今後は、避難所としての機能を持つような設計でなくてはならない。

5/3
- いわて：5/3 岩手日報 支援 東日本大震災で被災した障害者のため、障害者自身が立ち上がった。自身も障害者である盛岡市の今川幸子さん（31）が代表となり同市に「被災地障がい者センターいわて」が発足した。

5/4
- ふくしま：JDF被災地障がい者ふくしま支援センターニュース「 つながり」 No3

5/5
- ふくしま：・乙武洋匡氏が来訪
- 【課題】・福祉避難所をさらに設置していくべき。・障害者が居宅している際の避難方法を想定した対策が必要。・ボランティアの人数の確保はもちろんだが、公的に介助者を確保する手だてはないか。
- いわて：・避難所を回り障害者の方と話し支援の必要性の確認・行政を回り障害者の状況確認・障害者団体の状況確認、支援等
・山田町・大船渡・宮古市の支援、避難所めぐり

5/6
- ふくしま：福島県との懇談 提案と要望

5/9
- ふくしま：5/9 毎日新聞 被災者向けの情報に被災地障がい者支援センターの情報が掲載される

5/10
- みやぎ：「被災地障がい者支援センターみやぎ」活動報告書No1ー①

5/12
- 全体：5/12 毎日新聞 全国13カ所の国立ハンセン病療養所の入所者でつくる「全国ハンセン病療養所入所者協議会（全療協）は12日、青森市で開いた代表者会議で、東日本大震災の被災者を療養所で受け入れるよう厚生労働省に申し入れることを決めた。療養所は医療や介護が完備し、仮設住宅を建てられる広いスペースもある。さらに病気による差別や偏見に苦しんできた立場から、原発事故に伴う福島県民への差別問題も看過できないとして被災者支援の方針を決めた。

5/13
- ふくしま：全国自立生活センター協議会常任委員会へ要望書提出
- いわて：・大船渡、大槌町の方への定期的な支援を中心に活動

5/14
- 【声】社会福祉法人 福島県福祉事業協会の知的障害者・職員→避難所を転々としてやっと現在の場所を確保できたがこの先、仮設住宅への移動を含めて展望がもてない。
- みやぎ：・全国からボランティアが集まり、被災障害者の支援に回ることが出来始めた。
・避難所の聞き取りや物資の配達などの活動をしている。
・事務所の改修まで手が回らないほど、やらねばならないことがある。
・事務所が同じだったので、日常活動と救援活動が混在し大変さが伺えた。
仙台市）の出張所が亘理町、登米市に立上がった。亘理町は職を失ったすけあい山元（介護保険施設）の職員の協力のもと活動している。登米市はそうそうの杜からボランティアが派遣され障害者の送迎業務にあたっている。
- 【声】自己責任ではない、被災弱者だ。支援に駆けつけてくれた方がいたことで、孤立していないとの思いを

5/17
- 全体：5/17 excite.ニュース 厚生労働省老健局介護保険計画課は5月16日付で、東日本大震災で被災した被保険者の介護サービス利用料の自己負担免除について、具体的な運用の方法を示した課長通知を都道府県にあてて出した。免除の期限は、現時点で来年2月29日の予定。

5/18
- ふくしま：・チラシの効果が出始める。新たな避難指示地域に住む方々の対応
福祉避難所設置の検討／2次避難所は個別化され情報が入りにくい
- 【課題】・障がい者やその家族は何処に避難したのか。／・支援する人も被災者である。／被災地の状況により障害が重くなった。／この際ということで入所施設をすすめられた。（親からも）社会的入院ではないか。／将来への不安。

5/23
- 【声】福島県から複数の入所施設利用者と職員→「いつ帰るの」「早く仕事がしたい」「夏物はどうしよう」
- いわて：「被災地障がい者支援センターいわて」に新拠点。
釜石市、山田町、大槌町、大船渡市への中継地点として遠野市宮守に新拠点設置。支援物資配達、障がい者関係のNPO、社会福祉法人、支援学校、関係団体へ訪問しニーズ調査など。

6/1
- ふくしま：（郡山市）の出張所を田村市（人材交流センター（仮称））に立上げる予定。第1期とも第2期ともいえる。
- みやぎ：「とっておきの音楽祭SENDAI2011」ブースで被災し困っている障がい者の何でも相談受付
- いわて：盛岡市の出張所が遠野市に立上がり沿岸部の支援に当っている。第2期（仮設住宅への入居が決まるまで）県内の障がい者関係機関で行われる、連絡会・報告会への参加等
- 【課題】どこのセンターも人材不足。各所常時10人程度(岩手県、宮城県で計50人）必要だが、ボランティア活動参加者に波があり、5人まで減ることもある。活動に支障がある。ボランティア参加者等の安定した人材確保ルート開発が望まれる。現地雇用も視野に入れているが、介護職は嫌煙されがちである。